

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 2 部門第 6 区分
【発行日】平成 17 年 7 月 14 日 (2005.7.14)

【公表番号】特表 2001-508012(P2001-508012A)
【公表日】平成 13 年 6 月 19 日 (2001.6.19)
【出願番号】特願 平 10-529585
【国際特許分類第 7 版】
B 6 5 D 81/32
【F I】
B 6 5 D 81/32 U

【手続補正書】
【提出日】平成 16 年 10 月 8 日 (2004.10.8)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】補正の内容のとおり
【補正方法】変更
【補正の内容】

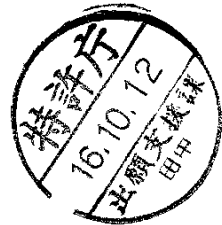
手 続 補 正 書

平成16年10月8日



特 許 庁 長 官 殿

1. 事件の表示 平成10年特許願第529585号



2. 補正をする者

名 称 ユニリーバー・ナームローゼ・ベンノートシャープ

3. 代 理 人 東京都新宿区新宿1丁目1番11号 友泉新宿御苑ビル

(郵便番号 160-0022) 電話 (03) 3354-8623

(6200) 弁理士 川 口 義 雄



4. 補正命令の日付 自 発

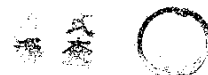
5. 補正により増加する請求項の数 なし

6. 補正対象書類名 請求の範囲

7. 補正対象項目名 請求の範囲

8. 補正の内容

(1) 請求の範囲を別紙の通り補正する



[別 紙]

請 求 の 範 囲

1. a) 少なくとも2つの分離可能な室、および
b) 前記少なくとも2つの室用の共通の蓋を具備し、
c) 前記各室が前側および相互結合された後側を含み、前記各室の前記前側が前側底面を備え、前記各室の前記後側が後側底面と後側上面を有し、前記各室の前記後側底面が底を形成し、前記各室の前記後側上面が前記他の各室の前側の底面と抱き合わせになり、
d) 前記室が、前記共通蓋は抜きにして、はずすことができるように連結して一体の瓶を形成することができる瓶。
2. 前記室が同一である請求の範囲第1項に記載の瓶。
3. 前記共通蓋がさらに前記室同士を結合する請求の範囲第1項に記載の瓶。
4. 前記共通蓋が1個または複数の内容物出口開口と、前記内容物出口孔を塞ぐ閉じた位置と開いた位置の間で旋回可能なキャップとを含む請求の範囲第1項に記載の瓶。
5. 前記キャップは、それが閉じた位置のとき前記共通の内容物出口開口内に適合する垂れ下がった栓を含む請求の範囲第1項に記載の瓶。
6. 各室について前記前側内部が前記後側内部と流体連通する請求の範囲第1項に記載の瓶。
7. 前記瓶が2つの側壁を含み、前記2つの室のそれぞれが前記側壁の1つを形成することを特徴とする請求の範囲第1項に記載の瓶。
8. 少なくとも1つの水平の横断面が、瓶の周縁部は第1の垂直面に沿って、かつ前記第1の垂直面と直角をなす第2の垂直面に沿って鏡面をなし、前記室の内部が第1の垂直面に沿っては鏡像をなすがその面と直角をなす垂直面に沿っては鏡像をなさないようなものである請求の範囲第1項に記載の瓶。
9. 前側と後側を備える二重瓶用の室であって、前記前側が前記後側と相互連結され、前記前側が前側底面を備え、前記後側が後側底面と後側上面を有し、前記後側底面が底を形成し、前記室が別の前記室と連結して二重瓶を形成することが

できるように、前記後側上面が前記室の前側底面と抱き合う形を有する室。

10. 前記前側内部が前記室の後側内部と連通する請求の範囲第9項に記載の室。

11. 前記室が、前記の連結している室同士が互いに隣接して内容物出口孔を有するように形成された内容物出口孔を有する請求の範囲第9項に記載の室。

12. a) 少なくとも2個の分離可能な室と、

b) 前記少なくとも2個の室用の共通蓋とを具備し、

c) 前記室は、一体の瓶を形成する室同士をはずすことができるように固定するための一体式連結部位を含み、前記各室が前記一体式連結部位のため同じ構造を有する瓶。